

いちよう

ご自由に
お持ち帰りください

新年のご挨拶

早期治療で快適な生活を！おしり外来開設

救急外来リニューアルオープン



中津胃腸病院 理念と基本方針

～ 安心して、気持ちよくかけられる病院 ～

1. 消化器病を中心に、診断から治療まで迅速に、一貫性を持った最先端の医療を行う。
2. 「全ての医療は患者さまの為に」という気持ちを忘れず、説明・接遇・医療行為は親切安全を旨とする。
3. 地域医療の向上に貢献すべく、自らの研鑽を怠らず、学術活動や情報発信の努力精進を続ける。
4. 地域の期待に応えるため、救急・検診・予防医療・教育でも、能力の限り積極的に対応する。
5. 病診連携を円滑に保ち、受診・転院・セカンドオピニオンにも、最大限の便宜を図る。

2022年2月1日～開設

便秘・痔などおしりのお悩みは 中津胃腸病院 おしり外来 へ

ご存じですか？こんな人が痔になりやすい

ダイエットのために
食事量を
減らしている

出産を控えて
便秘になっている

冷え性

繰り返す
便秘や下痢に
悩んでいる

トイレに
入っている
時間が長い

仕事で長時間
座りっぱなし

重い物を持つ
ことが多い

お酒や
激辛料理が
大好き

日常生活の中で便やおしりのことについて会話がされることは少ないと思います。おしりの代表的な病気といえば痔ですが、実は日本人の3人に1人は痔にかかっているといわれるほど、男女、年代問わず多くのひとに関係がある身近なものです。おしりの調子が悪いことは特別なことでも恥ずかしいことでもありません。中には何年も症状を我慢される方もいるのですが、早期に適切な治療を行うことで楽に治せる可能性が高くなります。気になることがありましたら、ひとりで思い悩まず、お気軽にご相談にいらしてください。

プライバシーに
配慮した
診療体制

腸と肛門の
専門医による
診療

苦痛のない
検査・治療

デジタル肛門鏡導入

従来に比べ
短時間の検査
でより正確な
診断が可能に
なりました



診療時間 毎週土曜日9:00～12:00

まずはお電話にてご予約をお願いいたします

中津胃腸病院 入退院支援センター
TEL:0979-24-1632(代表)

予約受付:平日 8:30～16:00
土曜 8:30～12:00



2022年3月 リニューアルオープン 中津胃腸病院 救急外来 365日24時間対応



救急外来への入口は専用入口となります

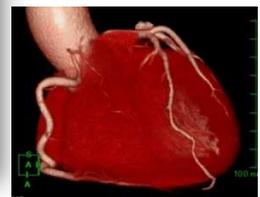


当院は救急指定病院の認定を受け24時間の救急医療体制に対応しています。地域の皆さまが安心して暮らせるよう、時間外(平日夜間・休日)も救急車の受け入れを含め救急診療を行っています。救急車で運ばれてくる患者さま、緊急の治療が必要な患者さまを含め、入院・手術を必要とする重症患者さまを受け入れるための二次救急指定病院です。当院の専門以外の病気であった場合や、高度先進医療を要すると判断された場合は、近隣の専門施設と連携をとり、迅速に紹介・搬送いたします。

この度、当院では救急外来を増設いたしました。救急外来には専用のベッドを設置、レントゲン検査やCTは24時間検査可能な体制を整備しています。地域に密着した救急病院として、様々な急性期疾患に対応し、地域医療に貢献できるよう、今後もより充実した救急医療に取り組んでまいります。

CT装置が新しくなりました！

2022年1月にAI技術搭載のCT装置を導入いたしました。非常に短い時間で広範囲の撮影が可能になり、AI技術を使った以前よりも少ない被ばく線量で高画質な画像を地域の皆さまに提供することができます。ノイズの少ない細かいスライスでの観察や金属ノイズを極限まで抑えた画像で診断に有効な情報を提供できます。



このCT装置で出来ること

- ・腹部領域（肝臓・胆のう・膵臓・腎臓・消化管など）の検査
- ・胸部領域（肺がん、肺炎など）の検査
- ・頭部領域（出血、動脈瘤、腫瘍、蓄膿症など）の検査
- ・内臓脂肪面積の計測
- ・大腸の3D【完全予約制】
- ・心臓（冠動脈）の3D【完全予約制】



新年のご挨拶

「新年明けましておめでとうございます。」と心から申し上げられないお正月をまた今年も迎えることになりました。人類が小さなイガグリのような形をしたウイルスと戦いはじめて2年が過ぎようとしています。人類の英知を集めてもこのイガグりはイガの形をエイリアンのように変えて私たちを欺いていきます。まだしばらくは戦いは続きそうです。

古来から疫病は幾度となく人類を襲ってきました。そして瞬く間に驚くほどの数の命が奪われていきました。人々はその形の見えない恐怖を神様の怒りや鬼の仕業と考えました。

胃腸病院から坂を上った所に薦神社（大貞八幡宮薦神社）があります。初詣などでお参りされたことのある方も多いと思います。宇佐神宮の祖宮ともいわれ、三角池（御澄池）という池がご神体という神秘的なお宮です。

このお宮で毎年2月11日の建国記念の日に「おしんげや」という祭事が行われます。鎮疫祭とも言われ、「御心経会」と書きます。字の通り神仏習合の由来を持つ行事です。宇佐神宮では「おしんぎょうえ」といいますが、薦神社では「おしんげ

や」と親しみを持って呼ばれています。無病息災や開運除災を祈る祭事ですが、平安時代に天然痘が流行した時に疫鎮めの祭事として始まり、千年以上の歴史があります。祭事の終わりは、「鬼」と書いた紙の的を狙ってみんなで竹の矢で射る「鬼やらい」という儀式が執り行われます。疫病の治療法がなかった時代、多くの命が奪われていく中で、鬼に見立てた的に矢を射り、疫病が通り過ぎていくことを祈ったのだらうと思います。このような祭事が身近で今も絶えずに地域の人たちの手で受け継がれているのです。

胃腸病院は消化器科を中心とした病院ですが、昨年から県北地域の新型コロナウイルス感染症対策に協力するために様々な取り組みを行っています。建物外の駐車場に発熱外来を建設し、発熱患者さんと一般患者さんが交わらないようにして発熱者の診察を行っています。またコロナ治療の協力病院（県北に4病院）として一般病棟と離れた場所に陰圧装置を設置したコロナ病棟を増設し、基幹病院の市民病院や宇佐高田医師会病院と連携して、軽症から中等症の患者さんの受け入れ・治療を行いました。第5波では県北地区は一時東京をしのぐほどの人口当たりの患者数になりましたが、保健所や医師会、地域の医療機関が協力して乗り切ることができました。また、数多くの方のワクチン接種も行い、集団接種会場にも人員を派遣しました。今も3回目接種を継続して行っています。

この「いちょう」が発行される頃は第6波はどうなっているのでしょうか？いつ来てもいいように準備して新年を迎えたいと思います。薦神社の「おしんげや」のご利益にも力を貸してもらいつつ、本年が皆様にとってどうか良い年になりますように。



院長

深野 昌宏

～ 2022年 寅年はどんな年？～

寅（虎）は、「千里行って千里帰る」と言われるほどの優れた行動力の持ち主、そして勇猛果敢で、周りを見渡す力があることから、決断力と才知の象徴とされています。「寅」は「動く」という意味で、春が来て草木が生じることを表しています。このことから寅年は、芽を出したものが成長する、これから成長する物事の始まる年とされています。どんな状況の中でも虎のようにたくましく、躍進できる年になることを願います。



あけましておめでとうございます。

皆様には、佳き新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年は、東京オリンピックでの日本選手団の活躍や、ゴルフの松山選手のマスターズ優勝、大谷選手の驚異的な記録ラッシュなどに日本中がおおいに沸きました。一方、新型コロナウイルスの蔓延、拡大に多くの人々が苦しんだ1年でもありました。中津市内の多くの病院でも、新型コロナウイルス患者の受け入れを行い、また通常の診療に特別な配慮を要しました。懸念されていたデルタ株は、国民の7割以上がワクチン接種したことと国民の行動自粛が相まって、急激に減少したところではありましたが、オミクロン株の出現にて、不安を抱えたまま新年を迎える形となりました。オミクロン株は、感染力の強さや再感染のリスク、ワクチンや治療薬への影響などまだ十分な知見が得られていませんが、初期の実効再生産数はデルタ株の約4倍と報告され、南アフリカやデンマークなどで“類を見ない速度”で患者が増加しました。年末年始の人の動きが活発になる時期を迎えていますが、街へ繰り出すにも、慎重の上にも慎重な対応が必要です。また、昨年は、小田急線無差別刺傷事件や、京王線刺傷事件、大阪北区のクリニック放火事件など特異な事件が相次ぎました。いずれも一般的な公衆の場で、犯人に関係のない人々がいきなり巻き込まれた事件でした。オミクロン株に感染し発熱症状があった男性が、ほぼ満員のスタジアムでサッカー観戦していたという報道もありました。日常の生活の中でもどこに危険が潜んでいるかわからない時代になっていると感じます。安全・安心はただでは手に入らないものだとして強く自覚する必要があるのかもしれない。



副院長

安部 寿哉

さて、“安心して気持ちよく”これは、当院の基本理念に掲げられている言葉です。病院には、病める人、弱っている人が多数いらっしゃいます。何より安全が大切です。院内感染対策をはじめ、医療事故・薬害防止、病棟内転倒・転落防止、見落とし防止、防犯、防火、防災…やるべきことは沢山あります。しかし、当院には40年以上積み上げてきた経験と知識をもったチームがあります。多職種の職員が、常に知識をアップデートさせながら、皆様に安心して安全な医療と気持ちよいサービスを提供していくことをお約束したいと思います。本年もご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

本年も中津胃腸病院を宜しく願いいたします

新型コロナウイルスワクチン3回目接種

2021年12月から医療従事者を対象とした新型コロナウイルスワクチンの3回目の接種が始まりました。当院でも、2回の接種を終えた職員は順次、3回目のワクチン接種を受けております。2022年1月からは高齢者の方の接種が始まります。冬の場合インフルエンザワクチンを接種されている方もいると思いますが、インフルエンザワクチンと新型コロナウイルスワクチンの間隔は一般的に2週間以上あける必要がありますのでご注意ください。

中津胃腸病院はワクチン接種後も感染拡大防止のため引き続き感染予防対策に努めてまいります。



第39回大分県病院学会報告

2021年11月28日に開催された大分県病院学会に参加しました。今回は別府ビーコンプラザでの現地開催とライブ配信を行うハイブリッド形式での開催となりました。当院より3つの演題を発表いたしました。

入退院支援システム構築に向けた取り組み

当院は一般病棟、地域包括ケア病棟、緩和ケア病棟を有し、訪問診療センターを併設しています。2020年9月より入退院支援センターを再編し、患者・家族が安心して暮らせるための入退院支援を実践しています。入退院支援センターの活動を①入院前・入院時支援、②退院支援、③地域連携、について振り返りました。入院前支援により退院に際する問題を早期に予測し、退院支援会議で退院目標が明確化され、多職種間の情報共有や連携が強化され、在宅移行に必要な支援を提供できました。退院後訪問は院内スタッフの在宅療養に対する意識付けになり、退院後支援する地域の医療スタッフとの連携の重要性も認識できました。入退院支援は入院前から退院後も継続して行う必要があり、多職種連携・地域連携が必要不可欠です。今後当院の特色を地域で活用できる前方後方支援システムを構築し、地域の医療・介護・福祉と強固に連携し地域医療に貢献したいと思っております。

コロナ禍における 外来看護師の役割

新型コロナウイルス感染症のパンデミックは多様な変異株により予断を許さない状況が続いています。当院は消化器領域を中心とした一般診療に加え、発熱外来診療、軽症COVID-19患者の入院診療も担っています。本研究ではコロナ禍の外来における看護師の役割を明確にすることを目的に、外来看護師の活動を①発熱・有症状患者のトリアージ、②発熱外来、③病棟連携、で振り返りました。多職種と連携し、発熱・感冒症状のトリアージで院内感染を防ぎ、個々の感染対策に対する意識も向上し、外来診療において安心安全な医療の提供につながったと考えます。患者と限られた対面・接触のなかで患者の些細な変化を察知するよう努め、医師と連携し診療を進めました。発熱外来での活動は待ち時間の短縮や医師の働き方改革へも貢献できると考えられます。病棟連携の取り組みで現在院内感染は発生しておりません。外来看護師は患者の情報や変化を的確に捉えアセスメントし、多職種と連携し診療を進めるゲートキーパーとしての役割を担い、コロナ禍において院内の感染予防に寄与できると分析しています。

地域包括ケア病棟における 看護師の役割

日本は高齢化が進行し、厚生労働省においても2025年を目途に地域包括ケアシステムの構築を推進しています。当院では2014年に地域包括ケア病棟を開設しました。元来視力障害があり陳旧性脳梗塞による嚥下障害をきたした患者の退院支援を通して地域包括ケア病棟看護師の役割を考えました。対象患者は胃瘻栄養を行っていましたが経口摂取を強く希望されたため、言語聴覚士が介入し嚥下訓練を行い経口摂取可能となりました。ポジショニングや一口量などスタッフで情報共有し統一したケアを行いました。自宅退院を強く希望されましたが自宅療養は困難で、患者の意思を確認しながら多職種で何度も話し合いを重ね検討した結果、障害者施設へ入所し療養を継続することとなりました。退院前カンファレンスにて施設スタッフに胃瘻注入、経口摂取方法を指導、退院後も病棟看護師、言語聴覚士、栄養士が施設に訪問し状態を把握、問題点を確認、助言を行いました。多職種で連携し意思決定支援を行ったことで患者・家族の意向を踏まえた療養場所を決定できたと考えられ、また日々の看護において情報共有とケアの統一を行い、患者の経口摂取が可能になったと考えます。地域包括ケア病棟看護師の役割として、本人の意思決定支援、院内・院外の多職種連携で行う退院支援が挙げられました。役割の実践は地域包括ケアシステムの実現に寄与できると考えられます。





栄養だより



今年も心と体の健康に努めましょう

新しい年が始まりました。1月はその年を健康に過ごすための願いが込められた様々な行事が行われます。毎日の食生活を大切に、食文化も楽しみましょう。

おせち料理に込められた意味

新年を迎える日本人にとって欠かせないものといえば「おせち料理」です。おせち料理におめでたい意味があることは皆さんご存知だと思いますが、単に縁起をかつぐだけでなく、栄養価の高さやバランスの良さも抜群です。



【黒豆】

1年を「まめ（勤勉）」に過ごせますようにと願いをこめたもの。黒豆は大豆の一種で良質なたんぱく質を含んでいます。また、コレステロールを抑えるリノール酸、疲労回復を助けるビタミンBなどが豊富です。



【海老】

腰が曲がった海老は長寿の願いがこめられています。高たんぱく質、低脂肪食品です。カルシウム、ヨード、ミネラルなども豊富。コレステロール値を下げるタウリン（アミノ酸の一種）も多く含まれています。



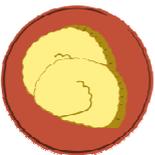
【数の子】

たくさんの卵を持つ数の子にはしんの卵。子孫繁栄の縁起物です。数の子に含まれるEPA・DHAは、動脈硬化や肥満の予防に役立ちます。



【昆布巻き】

「養老昆布（よろこぶ）」に通じ、不老長寿の意味があります。体内の代謝を活発にするヨードや塩分を排泄するカリウムを多く含みます。



【伊達巻】

「伊達」は華やか、おしゃれという意味。文書などの巻き物に見立てて、教養や文化が身につくことを願う意味もあります。卵と白身魚のすり身で作っているため、たんぱく質が豊富。



【紅白なます】

赤と白で水引を表し、平安、平和を祈る縁起物です。大根にはお餅などに含まれるでんぷんの消化を助けるジアスターゼをはじめ、ビタミンCなども豊富。人参はビタミンA、B、Cが豊富で、特にβ-カロテンを多く含んでいます。



【田作り】

かたくちいわしを乾燥させたごまめは、田の肥料にもしたことから「田作り」と呼ばれ、豊作の願いがこめられています。カルシウムやミネラルが豊富に含まれ、骨を丈夫にします。



【栗きんとん】

黄金色に輝く財宝に例えて豊かな1年を願います。糖分が多いため食べすぎは禁物ですが、さつまいもは食物繊維やビタミンCが豊富です。

1/7 七草粥

無病息災を願って、春の七草（セリ・ナズナ・ゴギョウ・ハコベラ・ホトケノザ・スズナ・スズシロ）を入れたお粥を食べます。お正月のごちそうで疲れた胃を整えます。



1/11 鏡開き

お正月に神様にお供えしたお餅をおしるこやお雑煮にします。鏡もちを食べることで神様の恩恵をいただき、無病息災を願います。さらに日数が経過し、固くなった鏡餅を食べることで歯固めと言って、丈夫な歯で長生きしようという意味もあります。

お正月になると、お餅を口にする機会が多くなりますが、正月太りの代名詞のように言われることも多いようです。本当にそうなのでしょうか？上手に食べる方法をまとめました。

■ お餅のカロリーは？

切り餅1個（約50g）約120kcal

丸餅1個（約35g）約80kcal

ご飯お茶碗1膳分（約150g）は約250kcalですので、切り餅2個、丸餅3個で同程度のカロリーとなります。

■ 食べるときの組み合わせは？

・野菜をたっぷり使う

野菜たっぷりのお雑煮なら、食物繊維も水分もとれるので、満腹感を感じやすくなります。



・代謝を助けるものと組み合わせる

納豆や大根おろしがおすすすめ。納豆にはビタミンB群が含まれ、糖代謝をスムーズにします。大根おろしの酵素は炭水化物の消化を助けてくれる優れたものです。



・甘味を避ける

たまにならいいのですが、毎回ではお餅そのものより、あんこや砂糖醤油、きな粉のカロリーでカロリーオーバーになってしまいます。なるべく、甘いものをつけて食べることは控えましょう。





訪問診療センターのご案内

中津胃腸病院 訪問診療センターは「全ての医療は患者さまの為に」という基本方針の下、在宅での療養をご希望される患者さまにとって最良なサポートとは何かを考え、在宅での療養生活をお手伝いさせていただきます。通院が困難な方、可能な限りご自宅で最期まで過ごしたいという思いがある方、お気軽にご相談下さい。



- 相談窓口
中津胃腸病院 訪問診療センター
住所：大分県中津市永添510番地(中津胃腸病院敷地内)
電話番号：0979-64-6256

診療時間

平日

午前 9：00～12：00
8：30～11：30 (診療受付)
午後 14：00～17：30
13：30～17：00 (診療受付)

土曜日

午前 9：00～12：00
8：30～11：30 (診療受付)

休診日

土曜日午後／日曜／祝日
(但し、急患はこの限りではありません)

診療科目

外科 消化器外科 内科 消化器内科
肛門外科 リハビリテーション科
疼痛緩和内科 麻酔科



医療法人社団
中津胃腸病院

〒871-0162
大分県中津市大字永添510番地
TEL 0979-24-1632(代表)
FAX 0979-22-9800
ホームページ：<http://n-icho.or.jp>

患者さまの義務

- 患者さまは、協力的・積極的に診療に参加してください。
- 患者さまは、自分自身の健康に関する情報を正直かつ正確に伝える必要があります。
- 他の患者さまの治療や、職員の医療行為の妨げにならないように病院の規則や指示を守する必要があります。
- 医療費は、遅滞なくお支払いください。

患者さまの権利

- 患者さまは、何ら差別することなく、どなたでも平等に医療を受けることができます。
- 患者さまは、必要なときに援助・助力を求め、最善の医療を受けることができます。
- 患者さまは、医療機関を自由に選択し、複数の医師の意見(セカンドオピニオン)を求めることができます。
- 患者さまは、検査や治療の目的・方法・内容・危険性について、十分に理解できるまで説明を受けることができます。
- 患者さまは、自分自身の診療に関する情報の提供を受けることができます。
- 患者さまは、十分な説明や助言・協力を得たうえで、あなたの意思に基づいて医療行為を受け、あるいは拒否することができます。
- 患者さまはプライバシーに関する権利を有し、医療に関する個人情報保護されます。